



四谷シモン《機械仕掛の少女I》1979/83年 なるせ美術座蔵 撮影:篠山紀信

荒木博志 × 四谷シモン

ラウンジトーク

ハンス・ベルメールの球体関節人形に運命的に出会ったことで、本格的に人形作家の道に踏み出した四谷シモン氏。機械工学を専攻する学生時代にエコール・ド・シモンの一期生となった荒木博志氏。二人を結びつけたのは、機械仕掛けの人形の制作でした。一九七九年、『機械仕掛の少女I』が発表されます。

このたびのラウンジトークでは、日本を代表する人形作家・四谷氏と、アトムをテーマにした作品などで知られる現代アーティスト・荒木氏が、作品や作家としての軌跡について、そして、人はなぜ人形をつくるのかを語り合います。

ひと ひとがた
人は人形をなぜつくる
2018年11月18日(日)

時間 | 14:00~15:30

会場 | 秋田県立美術館 2階 ミュージアムラウンジ

講師 | 四谷シモン氏(人形作家) 荒木博志氏(現代アーティスト)

定員 | 30名 参加料 | 無料

申込先 >>> 秋田県立美術館 (〒010-0001 秋田市中通一丁目4-2)

TEL 018-853-8686 FAX 018-836-0877

※お申し込みは電話、またはFAXで、以下の内容をお知らせください。

①お名前 ②ご連絡先(電話番号)

主催:秋田県立美術館(指定管理者公益財団法人平野政吉美術財団)

※ラウンジトークでは、作品は展示されません。